

2012年ミレニアム技術賞に、高レベルな候補が集まる (日本語)

2011年8月12日

7月末に締め切られた2012年ミレニアム技術賞の募集に、40件近い候補が集まった。推薦された候補の多くがアメリカからだったが、日本を含むアジアやオーストラリアの候補も目立った。ヨーロッパで最も多かったのがドイツ。今回は、フィンランドからも候補の推薦があった。「推薦された候補の技術的レベルは高く、候補に上がった技術の背景にあるイノベーションも、例年より幅広い分野にわたっています」と、フィンランド技術アカデミーのアイノマイヤ・ハールラ理事長は語る。

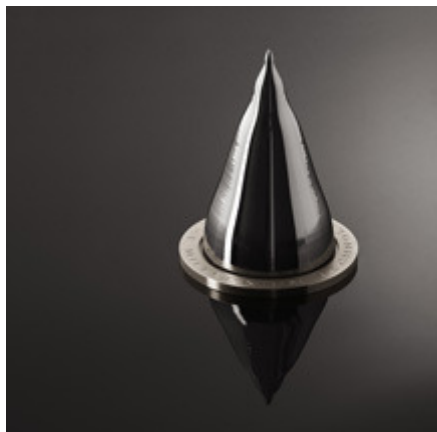


写真: フィンランド技術アカデミー

フィンランド技術アカデミーは隔年ごとに、人類の生活の質を著しく向上させた技術革新に賞金100万ユーロ(約1億1000万円)を超えるミレニアム技術賞を授与している。今後の日程としては、国際選考委員会が選出し、フィンランド技術アカデミーの理事会が承認した最終選考候補が2012年4月に発表される。受賞者は、同年6月にヘルシンキで開催される式典で紹介される予定だ。

「国際選考委員会が重要視する審査基準は2つあります。まず最初に、受賞対象となるイノベーションは持続可能な発展を支えながら、できる限り多くの人々に有益な影響をもたらさなくてはなりません」と、ハールラ理事長は言う。「またミレニアム技術賞は、生涯功労賞ではありません。未来の最先端研究開発を奨励する意味合いが込められています」

2002年に設立されたミレニアム技術賞は、2012年の受賞者発表で5回目を迎える。前回の2010年には、再生可能なエネルギーへの幅広い応用が期待されている色素増感太陽電池の発明者であるマイケル・グラッツェル教授に授与された。それ以前の受賞者には、革新的なバイオマテリアルによる薬物放出制御技術と細胞再生技術を開発したロバート・ランガー教授(2008年)、発光ダイオードを発見した中村修二教授(2006)、ワールドワイドウェブを発明したティム・バーナーズ＝リー卿(2004)が並ぶ。

リンク ミレニアム技術賞 <http://www.millenniumprize.fi/>

ミレニアム技術アカデミー http://www.technologyacademy.fi/index_en.html